

日進市子ども読書活動推進計画 具体的施策 進捗状況管理表

全35施策のうち新規5施策(重複有) 重点目標11(重複有)

○・・・実施済み △・・・着手した ▲・・・検討中 ×・・・未実施、中止(コロナ)

大項目 (目標)	中項目 (分野)	小項目 (各施策)	施策種別 (新規継続)	施策の概要	具体的実施方法(案)	直近の年の実施内容	施策の実施状況				
							29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
基本目標1 家庭、地域、学校等における取組の推進											
1 家庭における子どもの読書活動の推進											
		(1) 家庭や地域における読み聞かせの充実	継続・拡充	各家庭に対して、おはなし会などの読み聞かせの機会を浸透を図る。	家推、幼保、学校を通じて、おはなし会の紹介や、読み聞かせ講座の参加者募集を広く周知する。	昨年度は、趣向を変えてわらべうたの講座を開催した。 今年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できず。	△	○	○	×	
		(2) ブックスタートへの参加促進	継続・拡充	市保健センターで開催するブックスタートに対し、より一層の参加者増を計る。	ブックスタートに図書館ボランティアを派遣し、赤ちゃん絵本の読み聞かせを行う。また、合わせて図書館における乳幼児読み聞かせを楽しく紹介し、参加を募る。	昨年度については、3月に派遣予定であったが新型コロナウイルスの影響で実施できず。 今年度も現状の感染状況では実施は困難である。	○	○	×	×	
		重点 ブックスタートへの参加率100%達成			何らかの事情により、ブックスタートに参加できなかった市民に、読み聞かせの紹介などを、紹介する機会を設ける。もしくは訪問・通知する。	図書館から保健センターに配布を依頼しているパンフレットがもうすぐ無くなるため、次回作成する際保健センターと協同で作成する。	△	△	△	△	
2 保育園、幼稚園等における子どもの読書活動の推進											
		(1) 保育園、幼稚園等における読み聞かせの充実	継続・拡充	保育園・幼稚園で毎日保育士が行っている読み聞かせの機会に、図書館ボランティアを派遣する。合わせて図書館のおはなし会や児童コーナーの紹介に努め、利用者の増を計る。	図書館が幼保と連絡体制を整え、幼保からの依頼を具体的に汲み取り、希望にあった読み聞かせボランティアを派遣する。仲介役を務める。	現状では、読み聞かせ以外のボランティアの派遣はなし。	○	○	×	×	
		重点 全市立保育園における読み聞かせの実施			全ての保育園にボランティアの活動の場を設け、保育士以外の読み聞かせを行い、市立図書館の紹介を行う。	昨年度・今年度も依頼がないため未実施。 新型コロナウイルスの影響もあるが、大多数の園がこどものとも社に依頼しているからとも考えられる。	△	○	×	×	
		(2) 言語が違う子どもへの本の提供	継続・拡充	幼保において日本語が通じない乳幼児がいた場合、幼保からの依頼に対応する。	幼保と図書館の連絡体制を整え、相互貸借を含む、多言語図書の貸し出しを行う。	多言語図書に絞った団体貸出の依頼は現状はない。 しかし、今年度クラウドファンディングで多言語絵本を購入予定であり、導入後は積極的なPRを行う予定。	×	×	▲	△	
3 学校における子どもの読書活動の推進											
		(1) 学校における読み聞かせの充実	継続・拡充	小中学校に図書館読み聞かせボランティアを派遣し、児童生徒の読書率向上を図る。	各校に読み聞かせ等の時間を確保してもらい、学校要望に応じた読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等を行う。図書館は学校からの要望やボランティアの派遣について仲介役を務める。	昨年度は、児童クラブや放課後子ども教室への派遣にとどまった。 今年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できず。	○	○	×	×	
		(2) ティーンズ向け図書の充実と学校図書館の活用促進	継続・拡充	学校図書館の充実を図るため、市立図書館との連携を活発化させ、児童生徒の読書率向上を図る。また、市立図書館へ児童生徒を誘導し、読書に努めるための方策を導入する。	学校図書館の活用促進に向けて、市立図書館の蔵書を活用することを考慮し、新刊の選書を行う。 市立図書館のティーンズコーナーの新刊情報をブックリストとして定期刊行し、各学校へ配信する。各校において、児童生徒に周知を図る。 市立図書館のティーンズ向け新刊について、児童生徒が選書し購入する機会を設ける。児童生徒のコメントを添えるなど、蔵書PRとともに、子ども達が興味を引くように取り組む。	今年度は学校配本コンテナ便の創設に伴い、学校配本用図書を増冊した。 中学校、高校へYA壁新聞を毎学期ごとに定期刊行している。 今後は、図書館ホームページにバックナンバーを掲載していきたい。 選書体験会として毎年開催している。	△	△	△	○	
		重点 ティーンズ向けブックリストの定期刊行					○	○	○	○	
		重点 (仮称) 子ども選書体験会の実施					○	○	○	○	
		(3) 調べ学習の充実	継続・拡充	学校における調べ学習に市立図書館の蔵書を活用できるように連携を図る。	団体貸し出しを行う場合に、学校の担任教諭と図書館担当が綿密に連絡調整し、授業内容に合わせた貸し出しができるよう最大限配慮に努める。	今年度から学校への配本ルールを明確化するるとともに、専任の担当者を指定してもらう事で綿密な連絡調整ができるようにしたが、まだ十分ではない。	○	○	○	○	
		(4) 学校団体貸出の利用促進	継続・拡充	市立図書館から学校への団体貸し出しを促進するため、学校事情を考慮した対応を行う。	市立図書館からの貸出枠を各学年の児童生徒数にあわせ、授業に差し障りがないようにする。また、学校の特別な用途に応じた貸し出しの相談に応じる。	今年度から各分野ごとに蔵書を分けてコンテナ化し、コンテナごと貸し出すコンテナ便を創設、運用中である。	○	○	○	○	
		(5) 読書運動の促進	継続・拡充	朝読書等の時間を確保し、児童生徒が率先して取り組む環境を作る。	各校において、子ども達自身が読書を意識して取り組む時間帯を設ける。	校長会で周知した。 全中学校で朝読書を実施した。	○	○	○	○	
		(6) 読書感想文コンクール、読書感想画コンクール等の参加促進	継続・拡充	読書感想文・読書感想画を通じて、子ども達が読書に関心を持てるような取り組みを推進する。	既存のコンクール参加について、より一層の啓発に努める。 読書感想画の展覧会を市立図書館で開催する。選出された児童生徒、並びに観覧に訪れる人々へ啓発する。	読書感想文については、例年どおり課題図書の特別貸し出しを行っている。 読書感想画については、現在では図書館での掲示は行っていない。 読書感想画については、現在では図書館での掲示は行っていない。	○	○	○	○	
		重点 読書感想画展覧会の開催					○	×	×	×	
		(7) ストーリーテリング、ビブリオバトル等、新たな読書活動の充実	新規	読み聞かせに留まらず、ビブリオバトル、ストーリーテリング等の手法を取り入れ、学校現場での普及に努める。	市立図書館が主催するビブリオバトルを目標として、各校において取り組みの普及に努める。	昨年度は、高校生の参加及び観客も審査員として投票できるよう改善した。 今年度は運営側としての大学生の参加を目指したが新型コロナの影響で中止した。 代替事業として、12月にビブリオバトルに関する啓発展示を実施。	○	○	○	○	
		(8) 子ども読書の日、こどもの読書週間における普及啓発活動	継続・拡充	国が定める記念日に、読書に関する啓発を行う。	各校における図書館まつりを時期に合わせて、開催、周知するなど、読書活動推進につながるよう啓発に努める。	昨年度は、こども読書の日及びこども読書週間のPRを4～5月にかけて行った。 今年度は、春先に新型コロナの影響で臨時休館した事に伴い、秋の図書館まつりの期間中に子ども読書週間・読書週間を合わせてパネル展示をPRした。	○	○	○	○	
		(9) 言語が違う子どもへの本の提供	継続・拡充	学校において日本語が通じない児童生徒がいた場合、学校からの依頼に対応する。	学校と図書館の連絡体制を整え、相互貸借を含む、多言語図書の貸し出しを行う。	多言語図書に絞った団体貸出の依頼は現状はない。 しかし、今年度クラウドファンディングで多言語絵本を購入予定であり、導入後は積極的なPRを行う予定。	×	×	▲	△	
4 ボランティア団体との協働の推進											
		(1) 地域、学校等への読書普及活動の拡充	継続・拡充	読み聞かせボランティアが図書館のみならず、地域全体で活動できるように取り組みを支援する。	地域の保護者等の要望や、家推等の行事に、読み聞かせをはじめとするボランティアが活動できるように、図書館が情報発信や仲介を行う。	昨年度は、児童クラブや放課後子ども教室への出張読み聞かせを行った。 今年度は、現在の所新型コロナウイルスの影響で実施できず。	△	○	○	×	
		(2) 新たな読書活動や試みの充実	継続・拡充	ボランティアの活動内容として、読み聞かせを中心としたものに限らず、さまざまな活動分野を習得できるように支援していく。	ボランティアの活動が自己満足で終わらないように、図書館が団体に対して啓蒙し、新しい分野の活動を推し進める。	図書館まつりの開催時に、リサイクル市の運営(受付、検温、入場者管理等)について図書館ボランティアの協力を得て実施した。	△	○	○	○	
5 日進市立図書館における子どもの読書活動の推進											
		(1) 図書館における読み聞かせの充実	継続・拡充	図書館における読み聞かせについて、更なる質の向上を図る。	各団体が行う読み聞かせをお互いに聴講するなど、技術向上を目指す機会を作り、団体が図書館外に活動範囲を広げていけるよう誘導する。	例年は読み聞かせ講座等を実施しているが、今年度は新型コロナの影響で実施は困難である。さらに、定例・特別なお話し会もコロナ禍で中止が相次いでいる事から、技術向上や維持に関して対策を講じる必要がある。	○	○	○	△	
		(2) ティーンズ(ヤングアダルト)コーナーの充実とブックリストの活用	継続・拡充	図書館のティーンズコーナーを今よりももっと充実させ、市内の中高生の読書需要に応える取り組みを進める。	図書館ティーンズコーナーの書架を拡充し、面出しやコメント添付など、中高生が入りやすい環境を構築する。また、定期的にブックリストを各学校に送付する。 新刊本を定期的にブックリストとして各学校に送付することで、ティーンズの貸し出し需要拡大を目指す。	選書体験会で選定した図書の紹介文をYAコーナーに設置した。 また、例年職場体験の中学生が体験時に選定した本の書評を掲示し、コーナーへの呼び込みを行っているが今年度は新型コロナの影響で中止となった。 中学校、高校へYA壁新聞を毎学期ごとに定期刊行している。 今後は、図書館ホームページにバックナンバーを掲載していきたい。	○	○	○	○	
		重点 ティーンズ向けブックリストの定期刊行					○	○	○	○	

重点 (仮称) 子ども選書体験会の実施			市立図書館のティーンズ向け新刊について、児童生徒が選書し購入する機会を設ける。児童生徒のコメントを添えるなど、蔵書PRとともに、子ども達が興味を引くように取り組む。	選書体験会として毎年開催している。	○	○	○	○	
(3) 学校司書との意見交換の促進	継続・拡充	学校図書館に携わる職員と市立図書館の職員が意見交換する場を設け、互いの事情を把握する事で団体貸出を含め、双方が効果を上げるように努める。	年に一回以上、学校司書教諭もしくは図書館運営補助を集めて、図書館職員と意見交換を行いお互いの事情を把握するように努める。例としてテーマを定め、それにかかる利用方法について議論を交わすなど、課題をひとつずつ解決できるよう取り組む。	昨年度は、職員が各小学校へ訪問し、意見交換を行った。今年度は配本ルールを明確化すると同時に専任の担当者を指定してもらい、連絡を密にするようにしているがまだ十分ではない。	△	○	○	○	
(4) 図書館出前講座の実施	継続・拡充	図書館から外部へ諸君を派遣し、図書館にかかる疑問点の解消を図り、読書需要を向上させる。	図書館から学校等へ職員を派遣し、図書館の利用方法や、疑問点などを応える質疑応答を行う。	新型コロナウイルスの影響で小学生の施設見学が取りやめになった事から、学校教育課が主導して図書館の案内ビデオを作成した。	×	×	×	○	
重点 図書館出前講座の実施			学校へ赴く場合は、対象を児童生徒に限定せず、教職員向けも可とする。	現在のところ、学校からの教職員向けの依頼はまだない。	×	×	×	×	
(5) 読書感想文、読書感想画コンクール等の活用促進		読書感想文・読書感想画を通じて、子ども達が読書に関心を持つ取り組みを推進する。	既存のコンクール参加について、図書館においても、より一層の啓発に努める。	校長会で周知し、取り組みを依頼した。	○	○	○	○	
追加検討中 読書感想文書き方教室の開催	継続・拡充		夏休みの小学生向け事業として、図書館において読書感想文の書き方教室を開催する。	読書感想文書き方講座として毎年開催しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず。	○	○	○	×	
重点 読書感想画展覧会の開催			読書感想画の展覧会を市立図書館で開催する。選出された児童生徒、並びに観覧に訪れる人々へ啓発する。	読書感想画については、現在では図書館での掲示は行っていない。	○	×	×	×	
(6) ボランティア活動の育成支援	継続・拡充	Nis-Livを始めとしたボランティアの育成を進める。	既存のボランティア講座の推進に加え、新たな取り組みの講座開講を検討する。また、技術向上のための取り組み、活動場所の提供を行う。	従来は特定分野(読み聞かせ・修理等)に限った講座を実施していたが、今後は従来の講座に加え、全ボランティアを対象とした交流会を開催していきたい。	○	○	○	△	
(7) 子どもの読書活動にかかる新たな取組の研究	新規	ビブリオバトル等の新たなジャンルの読書活動について、市立図書館が先頭立って情報収集と取り組みを進める。	ビブリオバトル等、新たな読書活動が発生した場合、図書館が情報収集、提供、活動の実施など、あらゆる取り組みに挑戦を続ける。	日進市子ども図書館会議として、毎年開催している。	○	○	○	○	
重点 (仮称) 子ども図書館会議の開催			市内各校の代表を集め、図書館で中学校対抗ビブリオバトルを開催する。小学生は前段階としてスピーチコンテストを開催する。他校の児童生徒から刺激を得ながら、読解力と表現力の向上を目指す。	昨年度は、高校生の参加及び観客も審査員として投票できるよう改善した。今年度からは、小学生は切り離し別の事業で手当てを行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、代替事業として啓発展示を行った。	○	○	○	○	
(8) 子ども読書の日、こどもの読書週間、図書館まつり等の取組の充実	継続・拡充	国が定める記念日に、読書に関する啓発を行う。	特定の時期に合わせて、読書活動推進につながる取り組みを周知する。	昨年度は、こども読書の日及びこども読書週間のPRを4～5月にかけて行った。今年度は、春先に新型コロナの影響で臨時休館した事に伴い、秋の図書館まつりの期間中に子ども読書週間・読書週間を合わせてパネル展示でPRした。	○	○	○	○	
(9) 障がいのある子どもの読書活動の促進	継続・拡充	読書が困難な利用者に対して合理的配慮をする。	サビエをはじめ、専用サービスの周知を行い、積極的に提供する。	サビエを導入し、新規利用者を取り込んだほか、市の広報(12月号)でも障害者サービスの一つとして紹介した。	○	○	○	○	
(10) 言語が違う子どもへの本の提供	継続・拡充	市内の学校等において、日本語が通じない子どもがいた場合、読書の依頼に対応する。	学校等との連絡体制を整え、相互貸借を含む、多言語図書貸し出しを行う。	多言語図書に絞った団体貸出の依頼は現状はない。しかし、今年度クラウドファンディングで多言語絵本を購入予定であり、導入後は積極的なPRを行う予定。	×	×	▲	△	

基本目標2 普及啓発活動の推進

1 子どもの読書に関わる普及啓発事業の実施									
(1) 家庭や地域における読み聞かせの充実	継続・拡充	家庭における読み聞かせを推進する。	図書館のおはなし会へ保護者を誘導するよう、これまでにない場所へ周知を図る。	プライムツリー赤池を広報拠点としているほか、館内のAEDに新たにデジタルサイネージを搭載し、そこでおはなし会の周知を行った。	○	○	○	○	
(2) 子ども読書の日、こども読書週間、図書館まつりにおける普及啓発活動	継続・拡充	国が定める記念日に、読書に関する啓発を行う。	特定の時期に合わせて、読書活動推進につながる取り組みを周知する。	昨年度は、こども読書の日及びこども読書週間のPRを4～5月にかけて行った。今年度は、春先に新型コロナの影響で臨時休館した事に伴い、秋の図書館まつりの期間中に子ども読書週間・読書週間を合わせてパネル展示でPRした。	○	○	○	○	
(3) ボランティア活動の充実	継続・拡充	ボランティアの募集を推進するとともに、育成支援を行う。	ボランティア全体のネットワークを形成できるように、図書館が周知する。また、中高生など子ども自身の参加を促す。	従来はNis-Livの中での会合はあったが、ボランティア全体での集まりはなかった。今後は、全ボランティアを対象とした交流会を実施予定。	×	×	▲	△	
2 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供									
(1) 読書活動にかかる子どもへの情報発信	継続・拡充	子ども達へ読書に関する情報を幅広く発信する。	ブックリストや図書館だよりなどを発信する。子ども達自身の体験に基づくオススメ本を紹介するなどの取り組みを充実させ、子ども達自身が参加し、共感する取り組みを目指す。	中学校、高校へYA壁新聞を毎学期ごとに定期刊行している。今後は、図書館ホームページにバックナンバーを掲載していきたい。	○	○	○	○	
(2) 子どもの読書活動にかかる新たな試みの研究	新規	ビブリオバトル等の新たなジャンルの読書活動について、市立図書館が先頭立って情報収集と取り組みを進める。	ビブリオバトル等、新たな読書活動が発生した場合、図書館が情報収集、提供、活動の実施など、あらゆる取り組みに挑戦を続ける。	昨年度は、閉館後の館内ツアーを新たに開催した。今年度は、2階の花壇を活用し、調べ学習を運動させた総合的な啓発事業を開催した。	○	○	○	○	
重点 (仮称) 子ども図書館会議の開催			市内各校の代表を集め、図書館で中学校対抗ビブリオバトルを開催する。小学生は前段階としてスピーチコンテストを開催する。他校の児童生徒から刺激を得ながら、読解力と表現力の向上を目指す。	昨年度は、高校生の参加及び観客も審査員として投票できるよう改善した。今年度からは、小学生は切り離し別の事業で手当てを行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、代替事業として啓発展示を行った。	○	○	○	○	

基本目標3 子どもが読書に親しむ機会を提供できる連携・協力体制の整備

1 家庭、地域、学校等相互の連携・協力の推進									
(1) 地域ボランティアを活用した読書活動の推進	継続・拡充	地域に根ざしたボランティア活動を推進する。	学校・保育園以外でのボランティア活動を支援する。	一昨年度にプライムツリー赤池での読み聞かせを実施したが、それ以降新たな場所でのボランティア活動は実施されていない。	△	○	×	×	
(2) 家庭、地域、学校の連携による読書活動の推進	継続・拡充	地域全体で子どもの読書を推進するための取り組みを推進する。	家庭教育推進委員やPTAによる読書に関する取り組みについて、相互理解を得られるように話し合い、地域全体への支援を行う。	校長会等でお話した。家推等への働きかけは今後検討する。	×	×	×	×	
2 図書館間等の連携・協力の推進									
(1) 広域連携による子どもの読書活動にかかる意見交換	継続・拡充	読書活動にかかる最新情報を得るため、近隣図書館との連携を図る。	広域図書館長会議等を活用し、現状分析や最新情報を得ることができるよう努める。	個別の事業や新型コロナ対策等で各図書館と情報交換を行う事はあるが、事業についての意見交換等は実施していない。	△	△	△	△	
3 子ども読書活動推進体制の整備									
(1) (仮称) 子ども読書活動推進会議の設置	新規	本計画を推進するために、図書館が中心となって会議を設け、様々な世代から意見を聴取する。	保育園や学校などの代表者を集め、本計画にかかる施策の実施状況について、話し合い、必要な修正や推進するべき課題を洗い出し、次年度以降の進め方に反映する。	子ども読書活動推進会議として毎年開催している。	○	○	○	○	
(2) 計画の進捗状況の把握と分析	新規	本計画の進捗状況を年度末までに分析し、図書館協議会に諮り意見を問う。	図書館協議会に諮った結果を加え、更に分析し、本計画の更なる改善に努める。	子ども読書活動推進会議を図書館協議会の前に実施することで、会議内容を図書館協議会に反映させていく。	○	○	○	○	